

Inclusion インクルージョン いんくーじょん

◎第1回定期考査終了 … お疲れ様でした。頑張りが報われると良いですね。

入学当初の硬い表情に比べ、休み時間の合間にはクラスメイトと談笑する姿が垣間見られるようになりました。学校生活に慣れてきた反面、気の緩みはどうしても生じてしまいます。GWや第1回定期考査を終えて一息つくタイミングですが、貴重な反省を次の目標に活かしましょう。

保護者の皆様におかれましては、PTA総会の出席や進路希望調査へのご協力など、誠にありがとうございました。何かあれば、電話やマチコミでお知らせ下さい。よろしくお願い致します。

◎副担任の紹介

【11HR 副担任】毛内 達也（もうない たつや）



担当科目：生物基礎

- ①カレーライス
- ②若いです
- ③座右の銘一文では
生き筋は決まらない

【12HR 副担任】石田 和久（いした かずひさ）



担当科目：数学

- ①カントリーマアム
- ②何でも残さず食べる
- ③なんやかんや耐える

【13HR 副担任】米谷 大河（よねや たいが）



担当科目：書道Ⅰ

- ①蕎麦
- ②負けず嫌いなところかな？
- ③なんとかなる、なんとかする

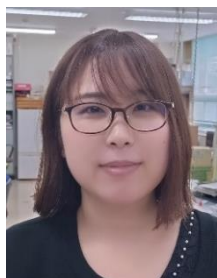
【14HR 副担任】白川 和歌子（しらかわ わかこ）



担当科目：家庭基礎

- ①寿司
- ②面倒なことを、どう樂で
かをいつも考えている。
- ③健康第一

【15HR 副担任】山田 典子（やまだ のりこ）



担当科目：音楽Ⅰ

- ①焼き餃子
- ②好奇心旺盛 研究熱心
よく寝る
- ③まわりのせいにしない。
自分にベクトルを向ける。

今回は、各クラスの副担任を紹介します。

主任・担任共々よろしくお願いします。

【①好きな食べ物 ②自分の長所 ③座右の銘】

◎伝統行事“虫おくり”親善大使 … 「地域を支える側の体験」から地域課題を考える

本校は、昨年度より「奥津軽 虫と火まつり」親善大使校として、たいまつ作りのお手伝いや市内小学校での紙芝居読み聞かせ出前授業、各種メディアでの広報活動や祭り当日の運営補助を行っています。今年度は一学年の「総合的な探究」の一環として、学年全体で関わっていきます。また、今年度は、6月15日（土）の祭り当日に運行団体として参加する予定もあります。現在、各活動の参加希望者を調整中です。保護者の皆様におかれましては、授業公欠や放課後等の活動がありますので、ご理解とご協力のほど、よろしくお願い致します。詳しくは、追って連絡致します。

★4月21日（日曜日）のPTA学年部会でお伝えしたように、入学式後に話した内容を書き起こしました。長いのですが、ご一読いただければ幸いです。（学年主任：張間）

PTA入会式（4／7）での話し

皆様、本日は足をお運びいただき、誠にありがとうございました。皆様は、本日のお子様の姿、どのようにご覧になりましたか。期待や不安など、様々な思いがあると思いますが、私は感謝の気持ちでいっぱいでした。彼らが自分なりにしっかり返事してくれたことで、担任団はとても助けられました。家に帰られましたら、私が感謝していたことをお伝え下さい。

実は、入学式の入場前、隣の二体で彼らに我々を助けて欲しいとお願いしていました。担任は入学式の呼名の際に名簿から目を離せません。正しく呼んだかは、生徒の返事に頼るしかないので。ただ、その返事は全員が同じような大声である必要はない。自分のできる全力で助けて欲しい。それが、「力行天下第一」だと伝えました（※学年通信第1号参照）。教師が生徒に頼るのは一見頼りなく見えるかも知れませんが、彼らには人を助ける力があります。それを発揮して欲しい。助けてもらった私たちは、彼らの高校生活を全力でサポートします。本校は地域の未来を担う人材を育成する使命がありますが、まずは目の前のお互いを助け合う集団でありたいと願っています。ところで、私がこのような話をするのには理由があって、この後に保護者の皆様にPTA役員を決めていただくことになっているからです。私たちを助けてください。私たちも、保護者の皆様を全力でサポートいたします。

さて、学年経営方針について、詳しくは2週間後の4月21日（日曜日）のPTA学年部会で説明します。しかし、当日欠席の方もいらっしゃると思いますので、要点をお伝えします。まず、学年の大きな方針は、「インクルージョン」です。似た言葉に「ダイバーシティ」（多様性）があり、同じように使われる場合もあります。何が違うかというと、「違い」を認め合うことは前提で、むしろ積極的に「違い」を作り出して活用していくイメージです。これを学校に当てはめると、「異なる背景や能力を持つ全ての生徒を歓迎し、活躍できる環境にしていく」ということになります。ちなみに、これはChatGPTの答えです。彼らはAIとも共存していくことになります。

なぜ、このような方針を立てたかと言いますと、人口減少時代を真正面で踏まえないといけないからです。昨年末に発表された将来推計人口によると、2050年に五所川原市の人口は45%減少し、他の西北地区の市町村は50%以上減少するとされています。新入生が25年後、40歳を迎えると人口は約半分になっている。彼らが地元で生きていくのであれば、誰もが違った役割をそれぞれに担い、活躍していく「インクルージョン」が必要になるのです。

しかし、この「インクルージョン」を実現する上で、注意しなければならないことがあります。それが、「右倣え」が通用しなくなることです。右の人は自分とは違うので、何をすれば良いかは自分で決め、その実現には自分なりの努力が必要になります。「他の人がやっているから」というやり方は通用しないということを保護者の皆様と共有させていただきたいと思います。

もう一つ、共有しておきたいことがあります。それが、本日入学した彼らの卒業後のイメージです。それは、「卒業後に一人暮らしできるか」ということです。例えば、大学に進学してもアルバイトはすると思います。3年後、彼らはできるようになっているでしょうか。自分で言いたいことは自分で伝えられなければならないし、時には自分から助けを求められなければならない。ちなみに、「自立」とは何でも自分でやることではなく、上手に人に頼ることだと思います。そんな力を育てる一助として、家庭では家事を手伝わせて下さい。そうすれば、彼らの生活力が高まり、家庭の中でも助け合う経験を積むことができます。

このような方針で学年を運営して参りますので、ぜひご協力のほどよろしくお願い致します。